夕刊 磐城新聞
十二月十八日發行
發行所 磐城新聞社
(日曜祭日翌日休刊)

琉球・台灣旅行談

山口彌一郎氏 十三日會講演筆記

四

領臺既に四十年ですか都會の一部と、小學生の言葉等に一寸影響が見える位で內地化してゐる點は期待より餘りに少いのに落膽します。習俗、言語を變へる事の如何に困難なるかを思はせます。街を歩いて嬉しい事は、どこにも亭仔脚と稱して家屋の一部を歩道に提供して皆歩いてゐます。それですからあれだけ熱いのに街の散歩には帽子がいりません。同じ様なのが北陸地方にあります。雁木と云ひまして、冬雪で道路が歩けない爲めに軒の下を道路にして歩くのですが、地方的に異なる氣候的差異が而かも同じ様な家屋の構造に現れた面白い對照であらうと思ひます

臺灣に居る人は多く對岸支那の福建省及廣東省から移住した者です。福建省の人は多く北半に、廣東省の人は多く南半に住んでゐます。これが仲々村を造つたり、着物や、髮の結び方に迄差異があるのです。その一寸した現れとして汽車の窓から見た水田の除草の様子が全然違ひます

福建人は膝を地面について除草をしてゐます、膝を痛めないものとするとこんな樂な方法はない理です然し廣東人はもつと樂な方法でやつてゐます。即ち直立して、竹の棒を杖にして足で除草をしてゐます。時に傘を持ち、子供をおぶつてやつてゐます。全く暢氣な限りです。さうすれば日本內地の除草はこの中間の姿勢とも云ひ得るでせう。

我々に最も興味を與へますのは台灣平野の北半は孤立村落と言つて一戸一戸が竹籔で圍まれて、數軒集つて村をなさないことで、南半に參りますと、二、三十戸乃至は五、六十戸の村落をなしてゐて、中央に鎮守の様に媽祖廟がある事です。その原因は未だ明瞭でありませんし專門に入りませんからお話し申し上げませんが、中部から南に行くと時折中年以上の女で檳榔樹の實をかんで口の中を茶褐色にして、一見眞に不潔に見ゐるのがあります

潮聲硯靜抄帳

『小鳥網』 酒井耕影選

芒影たゝみに長し十三夜 石城
明るさに起きて名殘の月見かな
後の月落の泡のしろじろと
琴の音に月の名殘を惜みけり 鶴歩
3 後の月鉢置きかへて待ちにけり
簷端に松影ひねて後の月

好問石雛忘年句會

4 川涸れて石ことごとく錆びてゐぬ 磐州子
3 瀧涸れて靜けき徑となりにけり 翠山子
3 梳る息の白さよ朝鏡 水掉女
2 靑寫眞弱き日射をうとみけり 磐州子
2 水涸れて乾き初めし岩の肌 同
2 葉牡丹の部屋の明るき窓日和 同
2 一と所皺になつたり靑寫眞 同

新年文藝募集

一、短歌(新年に因める歌)(山)
一、俳句(春に因めるもの)
一、童謠(同)

〆切十二月二十日、以上何れも數に制限無し

社會の今日

12月19日

△日本後紀を上る(承和八)△名奉行大岡越前守卒す(寶曆二)△姫路市外爭議亂鬪事件白餘名檢擧さる(昭和六)△東海道本線にて列車三重衝突椿事起る(同七)△信越線鉢崎にて旅客車土砂に乘上げ海に顚落す(同八)

○

湯上りを剪る足の爪伸び曲れり、長くもわれは冬を籠りし 佐治斗牛

社會の罪惡の半分は酒より半分は女より來る トルストイ

講談 戸隱奇譚 山の怪秘 (67)

丸山寛雄作 眞木浪畫

鳥人鬪爭(三)

呉葉は夢から醒めたやうに、ほつとして鞍から下された、そこは戸隱街道唯一の大きな茶屋が三軒も並んでゐる、荒安と稱する部落であつた

『お休みになつてゐらつしやいまし』

『すゝき團子が美味しく燒けて居ります』

赤い前垂れ姿の若い茶屋女が、二三人前に並んで黃色い聲を張り揚げてゐる

瀧之丞は、呉葉と一番奥まつた座敷へ通つた、茶屋といつても、簡單な掛茶屋ではない、街道に面したところは、緋毛氈の掛茶屋めいてゐるが、一歩中に入れば廣い土間があつて、その兩脇には幾つもの小座敷がずうつと奥まで並んでゐるのだ

十數人の村人らしいのが、小座敷を三つも打通しにして、何事か協議してゐる様子である、時々激越した口調も聞えてくる

呉葉と馬子仕立の瀧之丞は、その傍を通り、一番奥の小座敷の椽に腰を下した

『おい姐さん、つけやき團子をくれ、燒き立てのやつをな』

瀧之丞は、茶盃を運んで來た小女に云ふ、煙草に火をつけて、先づ一息を入れた

『いゝ景色ぢやないか、この向ふは』

『あの向ふの空に、黑く流れてゐる、あれが淺間の煙りだね』

『木曾の御嶽は』

『御嶽山は、到底、こゝからや見えやしないやね』

『富士山はどうだらう』

青磁色に重なり合つた山波の起伏、その上を白い雲が眞綿を散らせたやうに、こびりついてゐる、風がないためらしい、その上には果しない蒼穹が一杯に廣がつてゐる、鳶一つ、二人の眼の高さに悠々と、輪を描いてゐる、錯氣が冷々と面を打つて、汗を流して憩つたときのこの爽快さは山登りをする者だけに與へられた惠みである

瀧之丞は、附けやき團子を手にしたまゝ口へ運ぶのを忘れて、この山上の眺めに我を忘れてゐた

寄合ひの座敷では、益々とげ立つた口調になつて來た

瀧之丞も呉葉も、團子を口の中でもぐもぐさせながら聞くともなく、これを耳にしてゐた

『とにかく、もう一度、談合に行かうぢやないか』

『いや、もう理屈で物の判る吉田屋ぢやねえ、梯はずやつつけることだ』

『道理の判らねえ奴には、それより道がねえだらう』

『いや、皆さん一寸待つて下さい』

一番年嵩らしい、あせた紋付羽織を重ねたのが、立ち上つて一同を制した

『皆さんのた怒りは尤もぢやが、何せ相手の吉田屋は松代藩の役人と結託してゐることぢや。生じ手を出すと、しつぺい返しを喰ふから此際は二度でも三度でもちつくり談じ込んで得心の行くやうにした方がいゝと思ふが』

『いや御老人、事態が玆迄追つてゐるからには、そのやうな意見は無用だ』

隅の方にゐる若い者である

『何が無用か。穩當に事を運ぶにはそれより他に手段がねえだ』

これは古老の側に並んだ

『なに、穩かに事が運ぶ――手前は若い癖に萬事につけて穩便に事を濟ますことばかり思つてゐるだ、このちやら銀事件の埒が明かないのも、手前のやうな人間が混つてゐるからだ』

『なんぢやと……』

ドサリ何かなげうつ音、それをなだめる聲が雜然とかまびすしくなつた

青い餅 (四)

野村吉司

新公は小學校を卒業してゐたので、いつも職人達から五錢位貰つては島原の太夫から來た手紙を讀んでやつたり、その返事の代筆をさせられたりしてゐた位ですから、そのハガキを讀むこともできるのです

『わしは三十一日の夕方に歸るさかいせんちの手洗鉢と二番釜をようあろときなされたく候』

と書いてありました。其ハガキは主人から來たのです

新公はそれで手洗鉢を洗ひはじめたのですが、手の甲のシモヤケの皮が破れて血がふき出して、疼いて手を動かせることもできなくなりました

新公はそれでいゝ加減で手洗鉢を洗ふのをやめます

新公はそれから二番釜を井戸端へ抱へて行つて、水をかけてザツと洗ひます。二番釜といふのは染料を袞る釜のうちで、二番目の大きな釜なのです

間もなく主人は酒の香りをプンプンさせて十日ぶりで戻つて來ました

『お歸りやす』

新公はペコリと頭を下げます

『うん、手洗鉢と釜とを洗つておいたか?』

主人は重さうに下げて來た風呂敷包を、ドシンと上り端に置きながら尋ねます

『ヘエ、……それから、もう米がありません』

新公が言ひます

『これが米や、餅米や、これから餅つきや』

主人はさう言つて風呂敷をひろげて見せます。一緒に包んだ新聞紙の袋が破れて、その中の數の子が餅米にまぢつてしまつてゐます

それから主人は新公に手傳はせて、染料を袞る二番釜で餅米を焚きはじめます

そして便所の横の花崗石の手洗鉢を臺所の横まで引つぱり出して來ます。これが臼の代りになるのです

それでも物置きには、蜘蛛の巣にまみれた本物の杵がありました

……主人はヘッピリ腰で餅をつきました

( )………

廣告

自動車ノ御用ナラ何デモ御仰セ付願ヒマス。
驛前 昭和タクシー
電話 三三 四四 〇三 番
一、充實セルタクシー部
一、高級大型團体遊覽車
一、乘合(豊間、江名、中之作方面 小名濱直通 靈峯閼伽井嶽)
一、貨物一般運送

株式賣買、債權取立
合資會社 三共商事
平町大町 電三六〇

美味で評判の
イワキサロン
平町電三五二

磐城名物
靈峰羊羹
小川郷驛前 平屋賣店

七五三御祝 洋服 オーバ 大賣出し
……十一日ヨリ二十日マデ……
お孃ちやんた坊ちやんの樂しいお宮詣りの可愛らしい洋服、オーバーを豐富に取揃へて特價提供! 是非御來觀下さい。
ふかや洋服店 平電二〇三

防寒毛メリヤスと
七五三祝の贈りもの
婦人毛革ショール
子供毛革エリマキ
陳列 陳列
ツルヤ 電一四〇

不幸の爲休業御華客樣に御不自由相掛け申候處
本日より平常通り營業仕候
十二月十七日
越の家

移轉御通知
今度二丁目中野洋品店向へ移轉致しました。倍舊の御引立を願ひます。
洋服は 高島屋へ
●既製品も各種取揃へて御座います
新店舗 平町二丁目通り
高島屋洋服店
電話三八六番

忘年會 新年會
◈萬事御希望に副ふやう勉强して御奉仕致します。
◈御通知下されば當方より早速參上如何やうにも御相談に應じます。
◈尚餘興舞臺が出來ました。
平町紺屋町 住吉屋本店 電話一五九番

七五三
祝履特價賣出し
錦網傘代理店
平町五丁目 田口はき物店 電話三七七番

磐城鐵工機械同業組合

開業
專門 耳鼻咽喉科
診療開始 十二月十七日
高柳耳鼻咽喉科醫院
(入院應需 自炊ノ便アリ)
平町驛前 (電三三六)
醫學博士 高柳博明

夜間診療
胃腸性病 專門
內科 胃腸病科 花柳病科 性病科 皮膚科
松村胃腸性病科醫院
(平町南町電一〇一七番)

お醤油は……ヤマフル
鹽屋
味噌 醤油 たひら正宗 鰹節 食料品
山崎合名會社
福島縣平町 電話(營業部一〇番 本店二七番)

明治生命磐城代理店 山崎與三郎

完全燃燒のため煙筒掃除の要なき
日本一の……
フクロク・ストーブ
御申込次第カタログ持參御伺ひ致します。
發賣元
釜屋商店 平町五丁目 電話九番
阿部石炭商店 平驛前 電話三七番

良品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント特約代理店
金物問屋 和洋銅物
釜屋商店
磐城國平町五丁目 電話九番 九九番 振替貯金口座東京一〇九五六番
確實敏捷は久の生命なり

大勢遂に抑え切れず 渡戸の消防内紛表面化

部長に慊焉たる八名の連袂辭職

成行きを憂慮する平署

荻野傳吉氏を組頭とする永戸村大字渡戸消防組第二部では草野部長の出所進退が兎角公明を欠き勝ちであると云ふ事から幹部間に不滿を懐くものあり一部からその成り行きを憂慮されてゐたが愈々これに慊焉たる消防手八名は連署の上此程辭表を提出した、理由とする處は一昨年十二月就任した同部長が組員から或る種金錢の收支決算報告方を強硬に迫られるので夜間の一時頃行つた非常召集に際し之を行つた外更に同部が大字公有畑の小作料を横領したより無償で借り受けて居るなどの怪聞、幹部の配置、欠員補充の怠慢、自己の勢力扶殖等に端を發したもので平署でも今後の事態を憂慮し今十八日關係者一同を召喚取調べる處あつた

他にも波及の形勢

外十名も辭職協議

更に十名の同組消防手は畏くも總裁宮殿下の御令旨奉戴式を兼ねて行はれた秋季檢閲に際し同部長が該問題等に關聯し定刻二時間も遲延出席し集合組員約半數の不成績振りに檢閲を受けその理由をたゞされながら言を左右にして答へぬ態度に憤慨寄々辭表提出を協議して居るなど排撃庇護の兩派に岐れ益々不穩の空氣が漲つて居る

小作料の使途

平山前部長語る

前記小作料横領問題に關し前部長平山柳藏氏は左の如く語る

約三年間の小作料十五圓は學校池渫ひに際し消費したもので出納簿には記入してないにせよ草野部長も當時伍長をやつてその使途にも參劃したものだから判つて居る筈だ。云々

好事家が喜ぶ 年=賀=電=報

平局に送達紙到着

尖端的

今年最初の試みたる年賀電報は今から早くも尖端的好事者間に人氣を呼んで居り、平局では發信百通、着信五十通を豫想されその送達紙は今十八日同局に百枚到着したが純白無罫、上四分一に社殿、鳥居、初日出、松梅等をあしらひ右下に竹葉を配した極彩色美麗なもので、尚一層体裁を良くするため文面をタイプで打つ筈で仙臺遞信局より同時にアンダーウッド式電報受信用邦文タイプ機が到着し準備をさ〳〵怠り無いが、意外な人から賀狀を受けた場合などスピーディに祝賀を交歡するには誂ね向きのものでしかもその文例は一から十まであり

謹みて新年を賀す、早々

賀狀を賜はり難有存じ上ぐ

等相當長文のものも一音信として發信される

本庄看守長 滿洲國入り

明日平發赴任

平刑務支所長本庄吉助氏は此程退職、滿洲國司法部に就職することとなり明十九日平發午前七時二分で出發することになつた 氏は昭和四年六月着任以來五年六ヶ月間着實に任務を遂行しその間平自營會の一員として司法保護のために盡力されたので今回の退職は各方面から惜まれてゐる、尚約一ヶ月司法部に於て基礎知識を習得の上指令に基き地方刑務所に就任すると後任は名古屋より吉岡龍太郎氏が近く着任すると

郡下桑園改良協議

けふ平陽校に關係者會合

本縣が冷害對策として奬勵の桑園整理改植混作補助金は既報の如く縣下總額二十萬七千百七十八圓中本郡關係は

(整理反別)八十六町 (改植)六町七段七畝 (混作)九町一段二畝

合計金額九千八百五十九圓九十錢に決定されたので蠶業取締平支所では今十八日午後一時から平陽女學校に郡下各關係者を招き種々これが打合をなした

二瓶氏講演

行脚の途來平

平第一校では今十八日午後一時より小教春秋の主幹で大正十四年一月より三十年計劃で一萬遍の講演旅行をなし既に三府一道三十一縣三千五百回の講演を續けてゐる教育講演者二瓶一次氏の『軍曹ジャック』と題する講演を聽かせた、尚第二校では明十九日行ふと

金錢債務調停數 二ケ年に四百件

殆ど全部が成立の好成績

平區裁判所に於ける去る七年十月一日金錢債務臨時調停法實施以降本年九月末日に至る滿二ヶ年間の受理件數は

七年度八四件、八年二〇八、九年一二五

計四百十七件で内成立三百六件、取下が百九件で不成立は僅に殘る二件といふ好成績であると

入山參拜團

代表七名伊勢へ

入山炭礦が恒例として毎年實行しつゝある職員從業員代表の伊勢神宮參拜團は明年は職員側より比佐、關村の兩氏及永年勤續從業員中から五名を選み、一行は三十一日未明明治神宮を參拜の上東京驛出發元旦早曉伊勢神宮に詣で全山及職員從業員の安泰幸福を祈願すると

を差出す事となり準備中

町から賀狀

町出身現役兵に

平町では今十八日同町出身六十七名の現役兵に町長、町役、兵事主任の名で賀狀を發送

溝の中で虫の息

該當者無い？平町居住者

謎の鐵道自殺未遂

今十八日午前七時頃久の濱町地内鐵道線路附近のドブの中に落ち込み人事不省に陥つてゐる男を通行人が發見、四倉署で調べた結果所持品により平町白銀町一四久野常次郎(三八)で同日朝上り急行列車に飛び込み自殺を企て刎ね飛ばされたものと推定、平署に照會身許其他調査中だが平署の調べでは白銀町に該當者がないので目下同町役場に照會中であると

公定相場の影響で 地方の米價下る

引續き漸落を豫想

昨十七日農林省發表の本年度郡產米公定價格によると

銘柄	最高	最低
一等	三一、七三	二四、五三
二等	三一、五三	二四、三三
三等	三一、三一	二三、九三
四等	三〇、五三	二三、三三
五等	二九、六三	二三、四三

で當地產米買入市況は昨十七日四等二十六圓五十五錢であつたが今十八日は右の影響を受けて二十六圓二十五錢とガタ落を示し漸落を豫想されて居り、昨年度公定價格に比し高低共に約一圓高を示しては居るものゝ農家の生產費を割つた事から凶作に加へ地方農民は相當打擊を被るらしいと

鄉土の史的時事解説 (二)

白水阿彌陀堂の第二回修理

本堂宇の特別保護建造物並に內壇安置三佛像國寶各指定に就て (一)

勿來生

一、日本文明の東漸と關係せる平泉と岩城

岩手縣平泉の中尊寺境内の金色堂に次いで、本郡の白水阿彌陀堂は稀世の史的價値あることにつき今更言ふまでもないが、政府は前者に對して既に明治三十年に之が保護の修理を加へ、又其の堂内に安置する佛像も國寶に指定した。後者は少しく遲れて同三十六年に之を加へ、又內壇に据ゑらる佛体をもまた國寶に指定して修繕し、彼我共に本邦の美術、工藝の好對貴重遺物として國家的に永傳することゝし、乃ち堂宇は特別保護建造物、其の納むる佛像は國寶てふ夫々の名稱、規則の下に監守、保存することゝした

由來、日本文明の東漸と東北文化の各史を學ぶ者にとつては、平泉金色堂の創成を中心として之を看ることが必須の條件とされ、延いては全奥の入口であつた菊多剗外海道岩城乃至は白河剗外山道白河の各衙地を目して、是れが研究上の基點に置く事は通例であらう

既にして白水の阿彌陀堂は、右の如く第一回の官修を受けてから早くも三十年に垂んとし、其の間の星霜風雨は徒らに孤然たる之が堂宇を思ふが儘に損傷し、漸く頽廢に傾かんとしたので、玆に第二回の追修を要することゝなつた。故に本堂の別當である願成寺の住職と檀徒は無論のこと、郷土の有志は擧つて之が急要を知り、昨年から再修運動を起し、代議士比佐昌平氏に託して專ら當局(文部省宗教局古社寺保存課)に對つて熱心出願の結果、本年十一月に及び該豫算七千五百餘圓の內、政府の補助金は約六千圓を下附さるゝに決定し、差引千五百餘圓は地元の負擔となつて來年二月から工事に著手することと爲つた。從つて其の設計書や圖面は固より本縣廳で作製したのであるが、其等一切の專任技手や大工は孰れも保存課の指定、出張に俟つものである(該圖の寫しや其の關係に就き予は本月十二日、文部省に於いて當務者の關野博士と乾技手等に會つて種々質見した)孰れにしても本堂が再び修營を施されるに至つたのは邦家の爲め否本郡にとつては甚だ以て嘉幸の極みと謂ふべきであらう

渡邊補助陳情

渡邊村では平土木監督所管內冷害地救濟割當てから洩れたので永山村長は十七日平土木監督所に國庫割當てある場合は要救濟地として加へられたき旨陳情した

ゲームの外に品を取る

撞球場の手長娘

平町田町撞球場鈴木クラ方女中內鄉村御厩生れ佐藤キヨ(二六)假名—は去月中旬から犯意を繼續し同家に出入の同町醫師井坂久吉氏所有のダイヤ入りプラチナ指環(價格八十圓)の外數名より金品二百餘圓分を竊取した事發覺、昨十七日平署に檢擧さる

小名濱町會

去る十五日開き町營火葬場設置並に水產講習所新設寄附金一萬二千圓の增額による豫算更正及都市計劃に伴ふ編入區域の件を附議した

何等の恐怖無く 犯人の眞僞鑑別

平署で精巧な器械購入

平署では警察機能の一大刷新を圖るべく既報の如く三百二十圓を投じ購入した『透視鏡犯人鑑別器』は昨十七日午後着荷したので直に第一司法調室に備へつけたが右は東京市麴町區內幸町日本電飾株式會社製のもので大きさは約七尺に四尺位の箱形のもの、同鏡の科學的反射作用により犯人の眞僞を鑑定せしむる場合犯人に見られずして之を鑑識出來得る精巧なもので今後の成果を期待されて居る

愛婦功勞者表彰

愛國婦人會左記平支部員は同會務擴張に盡力した廉により今十八日伊藤支部長より硯箱一個を授與された

(古銀治町)山崎キタ(紺屋町)山崎キン(六間門)中村定子(南白銀町)水野サダ(一丁目)鷹崎千代(南町)淸野キヨ(元役場員)馬目俊次(同收入役)西野源次郎(八幡小路)小檜山喜美(紺屋町)門傳ハ美乃

町吏員忘年會

平町役場では水道課高羽正男氏の送別會を兼ね今十八日午後五時から谷口樓で吏員の忘年會を開いた

兎皮五千納入

郡農會では此程福島市で行つた兎皮陸軍被服廠へ納入に郡下より約五千枚を取纏め送附販賣した

愛慾の一擊に二年

廣野の內妻斬りに

けふ平支部で判決

双葉郡廣野村大字上淺見川字小松一一日雇根本辰次(三二)が內妻に復歸を拒まれ出刄を揮つて斬付けた殺人未遂事件は今十八日午前十一時より平支部で中島裁判長係り、關口、香西兩判事陪席、濟田檢事關與公判開廷、求刑五年に對し懲役二年を言渡された

昭和九年を顧る

その七

(十一日)平農倉の米共販前回より廿錢安(十二日)各炭鑛主腦部東京で思想對策攻究(十三日)昨今梅雨的天候(十四日)澤村公墓前祭、平町國道鋪裝地面堀り着手、平署の不時召集、湯本の十九娘妻子ある男と戀の逐電(十五日)遠來の水鐵高月磐炭入山に快勝、伊東氏來春滿蒙博覽會計劃平町民体育大會新川町勝、古河で納凉演奏大會、湯本靑訓巡回視察研究會、四倉築港人夫高木義男(三六)混凝士に膝から下をもがる(十六日)四倉に脫衣場賣店開始、變調天候五十九度七に下る(十七日)郡內十二村長木炭業更生陳情、平町大工町多門井質屋で盜まれた品半年目に入質さる(十八日)天候整調未し、東北々海道農村對策協議會(廿日)土用、一時晴れ再び霖雨へ飯米不足の聲頻り、箕輪道路改修陳情、平町國道鋪裝費負擔で土木委員會、內鄉御台境で內田鶴吉(七二)强盜傷人(廿一日)野球大會氣分本格化、郡下の菜種小麥增收連日の變調天候に乾燥を惱む(廿二日)中等校夏休へ、平在鄉軍人摸擬動員宮城福島對縣武道に平署から猛者(廿三日)縣下中等校野球大會變調天候に祟られ正午開會(廿四日)中等野球第二日、仁井田浦で大野の若者服毒絕命(廿五日)中等野球決勝で平商福師に敗る、郡計器支部總會、女子中等体育大會磐女競技庭球に勝つ(廿六日)波立藥師祭典天候に阻まれ人出少(廿七日)久振に晴る、縣社子鍬倉社頭に高麗犬計劃趣意書發表、東北豫選出場の平商に後援會(廿八日)平第二校舞踊の夕(廿九日)郡下敎員野球泉校捷つ、丑の日、農銀重役改選三週間延期と株主總會で決定(卅日)四倉の出願による大敷網漁業問題で豊間、久の濱代表出縣(卅一日)平商東北豫選へ、川前で木羽職根本常太郎(五二)同職を撲殺(八月一日)此頃の變態天候から減收を豫想し米不足に備ふる代用食の原料準備各小學校夏休(二日)中の作漁港工事進捗掘採作業開始、平のラヂオ体操會始る弗々夏蠶掃立開始、中等野球東北豫選第一日平商宮城縣工を屠る、平町會ホース問題無事解決、平局電話滿洲へ開通(三日)豊間で有用海藻人工養殖企劃、全國中等校庭球選手權で平商準決勝に敗る(四日)四倉で漁港完成後に備ふる上水道計劃協議會、平で三派聯合素謠大會、狂言の野村氏一行來平、泳ぎの名入豊間防波堤附近で今夏最初の溺死(五日)久振の晴に各演賑ふ但し稀有の閑散で旅館間貸は三分一、平町田町から新川端への排水路工事了る

飯野農產品評會受賞者

飯野村農會主催、農產物品評會は十五日より三日間小學校で開き出品二百五十餘點中左記入賞昨十七日授賞式を擧行した

(一等)玄米飯野小學校、大豆白土忠雄、葱鹽濱瑛胡、蘿蔔鹽長兵衛、牛蒡伊藤稔 (二等)玄米草野廣知、大豆飯野小學校、胡蘿蔔加藤邦義、馬鈴薯小泉德二 (二等)大根小野剛、同永山久子、牛蒡大橋金治、(三等)大根白土ミエ外三名 (四等)大根鈴木キヨイ外四名

聖護院大根馬目國光、同吉野吉之助、葱加藤那廣胡蘿蔔儀助、牛蒡山野邊一吉、体菜阿部利久、ホーレン草中野喜一、醤油山崎粂七 (三等)二十三名 (四等)四十一名 △小學校兒童作品(一等)

馬匹健診

石城產馬畜產組合では災害救濟馬の衞生施設として左記日割により健診を行ふ

(今井技手)永戸箕輪組合村十二月二十一日より二十六日迄受檢頭數五八六頭(小野技手)田人村外三ヶ村組合一月三日より十二日迄七八四頭、入遠野村一月十四日より同十九日迄五〇二頭(上野技手)川前一月四日より同九日迄五九五頭、澤渡三坂組合一月二十一日より同二十七日迄八四四頭

三校打合會

今十八日午後二時より第三小學校應接室に於て來年度豫算に就き協議した

裁判所忘年會

平區裁判所の忘年會は來る二十二日平町住吉屋本店に於て催すと

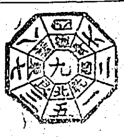
第二作文研究

平第二校では今十八日尋四米本訓導の作文研究教授を行つた

自轉車を盜む

平窪村中鹽字草鹿大工職八幡好文(二八)は去る十月十五日夜同村ムシカマド製造業草野[illegible]方の表庭にあつた古自轉車一台(價格十圓)を乘り逃げして此程平署に檢擧

當用日記 懐中日記 特種專門日記 無慮百餘種
新年ゐはかき 文字はかき カルタ トランプ
歳末年始 クリスマス 贈答品各種
和洋諸帳簿品々
マルトモ 柴田書店
平町四丁目 電話 一二四番 二三四番



十九日 日出 六、四五 日沒 四、三〇 滿潮 前五、二五 後三、一〇 月出 後二、五五 月沒 前五、一〇 干潮 前一〇、一〇 後一〇、三五

舊十一月十三日 水曜 甲子 大安 建 箕宿 新十二月十九日

路判定總本部 東京市本鄉區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部 神宮館

▲一白の人 難みに塞がれて兎角思ふ様に成り難き日 ▲二黑の人 山氣を起す時は却て失敗を招く堅實を守れ ▲三碧の人 公平の態度を以て英氣を奮ひ開たくに努めよ ▲四綠の人 福運を獲得すべき日他の引立ありて功多し ▲五黃の人 人の煽動に乘り易き日温和に身を保つべし ▲六白の人 じひ善根は人の爲ならず報は一家に及ばん ▲七赤の人 家道次第に延び行く日迷心は失敗に導かん ▲八白の人 浮沈曲折の多き日油斷大敵用心堅固が第一 ▲九紫の人 我慾に馳せて名を汚さゞるやう注意すべし

開業二十週年 特別奉仕
皆様の御贔負に依りまして當館も二十週年を迎へました。就ては日頃の御厚情に報い度いと存じまして例外の特價を以て撮影させて頂きます
(七五三御祝には例年の通り御子供様へ御土產差上げます)
2.00型 特價1.500
3.00型 特價2.500
平田町 中島寫眞館

內科
平南町 (電二四三)
川井內科診療所
川井安子